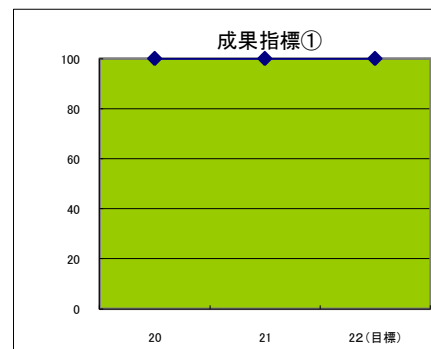
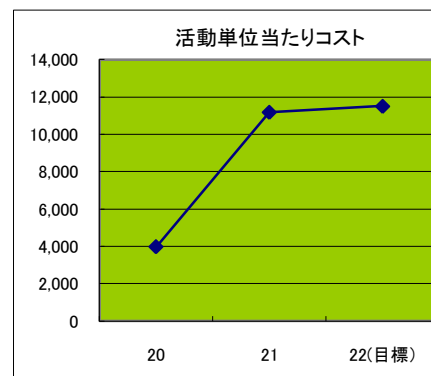


事務事業名		地域人材活用事業		予算科目	会計	1	一般会計
					款	10	教育費
					項	1	教育総務費
					目	2	事務局費
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	3	次代を担う子どもを育むまち	事業	27	地域人材活用事業	
	施策(節)	2	学校教育				
	施策の方向	(2)	教育環境の整備・充実	作成部署			
関連する計画等				教育委員会事務局学校教育室学校教育課			
事業の目的	対象(誰を・何を)			連絡先			
	市立小・中学校の児童・生徒・教職員			072 - 958 - 1111 内線 4162			
	意図(どういう状態にしたいのか)						
多様な体験活動を取り入れた授業実践を行えるようにする。							
事業の内容	総合的な学習の時間等に専門性を持っている地域の方々に参加していただくことで、児童生徒に多様な体験活動を取り入れた授業実践を行う。実践事例としては、環境保護活動・地域産業の聞き取りや体験・和楽器等の演奏体験等。						
根拠法令等		羽曳野市地域人材活用事業実施要綱					
事業開始時期	☐ 昭和 12 年開始 ☐ 明確にはわからない			終了年度			
	☒ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている			平成 年度			
事業開始時からの状況変化							
市民や議会の要望							
実施手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先	☐ 市外郭団体委託 名称()			委託内容			
	☐ 民間委託 ☐ その他						

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		1,200	1,050	1,050
人件費【2】 (千円)		450	2,172	2,172
職員数	正規職員	0.06 人	0.28 人	0.28 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.04 人	0.04 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		1,650	3,222	3,222
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	1,650	3,222	3,222
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 授業実施回数	回	416	288	280
② 地域人材のべ人数	人	396	396	350
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		3,966 円	11,188 円	11,507 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		14 円	27 円	27 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	①	実施率 (式) 実施回数÷計画数×100	%	地域人材の配置計画に対する実施回数	目標	100	100	達成率(%)	100	
					実績	100	100	100.0%		
	②	(式)			目標			達成率(%)		
					実績					

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	地域人材が授業参画する中で、学校・地域の活性化につながる。
		○		○					○		

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	児童・生徒の豊かな心を育むため、地域の方々とふれあい、体験活動を行うことは重要なことである。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
	国・府の事業と重複していない	☐	☐	☒	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	緊急性が認められる	☐	☒	☐	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	最低限の事業費で多くの地域人材の方々に授業参画をお願いできている。
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☒	☐	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	地域に開かれた学校づくりのための取り組みの一貫として各校に位置づいている。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	地元居住の専門性の高い方々に参画していただいている。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	計画の沿って実施できている。
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☒ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	各中学校区ごとの特性や地域の実情及び地域の声を反映できるよう、23年度より地域教育協議会事業をはじめ、社会教育課主管事業と統合し補助金化することも検討の余地がある。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行 事 本 部 評 価	地域・保護者・学校園それぞれが役割分担を明確にし、地域の実情に応じて取組みを推進できるシステムの構築が必要である。	
	総合評価 評価理由・意見 ☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	